

2025/11/10

早稲田大学文学研究科

日本語日本文学コース

(Cultural Sciences Japanese Studies)

秋季コース別相談会資料

ISSN 0389-8636

国文学研究

第二百二集

『明徳記』における山名義理の参詣記事について ——山名義理から参詣記事へ——	和田 琢磨	1
日本近代の「痴」をめぐる諸相 川端康成「海の大祭」論 ——田中「痴」の「見失われざる精神力」——	堀 誠	15
「新たな時代のマルクス」を求めて ——高橋正樹と石川三郎——	細谷 萌々子	43
谷崎潤一郎「覆刈」論 ——高橋正樹と石川三郎——	松田 時乃	56
擬人主義という陥穽 ——一九三〇年代における『和歌文庫』の書体分析——	石井 要	69
『讀演録』 キーワードで読む ——高橋正樹と石川三郎——	小島 ゆかり	83
『書評』 山崎薫著『物語と俳馬楽・風俗歌——うたは物舞から謡曲へ』 今野真二著『日本とは何か——日本舞の歴史の糸を通った国文学たう』	植田 恭代 木村 義之	98 101
堀誠先生略年譜・主要著作等目録 二〇二四年度博士論文・修士論文・卒業論文題目 新刊紹介 巻報 編集後記「わせた国文ニュース」二二号		

早稲田大学国文学会

『国文学研究』第202集（2025年6月）

【日本語日本文学コースがめざすもの】

文学の基本は言葉です。日本語日本文学コースでは、日本語とその歴史を探究するとともに、個々の文学作品の特色とその歴史的意義とを幅広く考察します。言葉とは何か、文学とは何かを考究することは、日本文化の本質を理解しようとすることにほかなりません。それはまた、日本という座標から世界を認識し、さらに世界の諸文化とのゆたかな共生をめざす新たな文化を創造する出発点ともなることでしょう。

本コースが目的とするのは、まさにこのような形での、日本語日本文学の研究を通した明日の文化創造への貢献です。日本の国内外において、日本語日本文学への高度の認識と、その社会への還元力・応用力を持った若い世代を育てることは、世界的な文化情報センターでもある早稲田大学の重要な務めであり、他大学にはない長い教育の伝統と豊富な実績を持った、日本語日本文学コースが果たすべき役割であると考えます。

そうした理念と使命感に立ち、日本語および日本文学全般について、豊かな見識と、専門的な知識を獲得するための技術とを身につけ、それぞれの研究分野・対象のエキスパートを養成することが、本コースの研究教育上の目的です。とりわけ今日では、外国からの留学生を含めて、国際社会など多様な場で活躍できる、高度な学術研究が可能な若手研究者を養成することが、大きな課題になっています。学際的な分野への対応能力（専門応用能力）を培い、修士課程・博士後期課程のそれぞれにおいて、優れた修士・課程博士を育成し、日本文化ひいては21世紀の世界の学術に資するよう取り組んでいます。

日本文学の古典領域においては、上代・中古・中世・近世各時代の研究に対応し、近代・現代領域では明治・大正・昭和・現代文学の研究に対応しています。また、日本語学においては古語から現代語にいたるまでの音韻・文字・語彙・文法・方言など、多岐にわたる日本語学分野研究に対応する体制をつくっています。研究方法においても、実証的な資料調査、本文研究から、最新のメディア・表象理論、文化研究、ポストコロニアリズム等にいたるさまざまな方法に対応できる教員がそろっています。

主として日本文学または日本語学の研究者、国際社会を含めて広く日本文学または日本語学の教育・普及に携わることのできる人材、日本文学または日本語学の高度の専門知識を必要とする編集者、ジャーナリスト、表現者を養成します。アジアを中心とする留学生も多く、それぞれの分野のゼミは、新たな見方・思考が交叉する活気溢れる場となっています。

みなさんにも、こうした日本語日本文学コースの一員として、日本文学・日本語学研究の高い志をもち、日本・世界の文化に貢献する役割を、ぜひ担っていただきたいと願っています。

【研究指導担当教員紹介】(2025 年度)

氏名	職名	現在の専門分野
----	----	---------

〈日本語学領域〉

加藤 大鶴	教授	日本語学
森山 卓郎	教授	日本語学
澤崎 文	准教授	日本語学

〈古典文学領域〉

高松 寿夫	教授	日本古代文学
陣野 英則	教授	日本古典文学、平安時代文学、物語文学
兼築 信行	教授	日本古典文学、和歌、文献学
和田 琢磨	教授	日本中世文学、軍記物語、太平記、絵巻等
池澤 一郎	教授	日本近世文学
河野 貴美子	教授	和漢比較文学

〈近現代文学領域〉

十重田 裕一	教授	大正・昭和期を中心とする日本近現代文学
鈴木 貴宇	教授	日本近現代文学、都市論、文化論
鳥羽 耕史	教授	日本近現代文学、戦後文化運動
坪井 秀人	教授	日本近現代文学、文化史研究

【大学院日本語日本文学コース配当科目】(2025 年度)

* 早稲田大学 Web シラバス (<https://www.wsl.waseda.jp/syllabus/JAA101.php>) でご確認ください。検索画面の「学部」の選択項目のなかから「文研」を選び、次いで、「科目管理主体」の選択項目のなかから「日本語日本文学コース」を選び、検索を実行すると、日本語日本文学コースが管理主体となっている全科目の情報が表示されます。上代から近現代文学、日本語学の各分野をカバーして、専任教員および各分野の専門家が担当する非常勤講師による研究指導・演習・講義が用意されています。

【在籍学生数】2025 年度、() 内は 2024 年度

(領域)	(修士課程)	(博士後期課程)	
日本語領域	7 (6) 人	7 (10) 人	
古典文学領域	15 (17) 人	9 (14) 人	
近現代文学領域	23 (23) 人	19 (22) 人	
合計	45 (46) 人	35 (46) 人	80 (92) 人

*2025 年度の留学生の在籍学生は、修士課程 11 人、博士後期課程 10 人、合計 21 人

【取得資格】

教育職員免許状（専修免許状）

種類： 中学校教諭「国語」専修免許状

高等学校教諭「国語」専修免許状

※中学校教諭 1 種免許状、高等学校教諭 1 種免許状を取得していることなど、取得条件を満たす必要があります。

【留学制度】（博士後期課程）

- ・コロンビア大学との DDP（Double Degree Program）
- ・UCLA（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）

【修士論文・博士学位請求論文題目】

〈修士論文〉

2024（令和6）年度

○高松寿夫

『万葉集』の「感覚」と「感情」

大伴坂上郎女研究

○陣野英則

『源氏物語』の庭と表現

『住吉物語』の研究——姫君と少将の関係を中心に——

『夜の寝覚』の新解釈——「おぼろけならずしみにける心」の再検討を起点として——

○和田 琢磨

覚一本『平家物語』における愛と死の表象

『平治物語絵巻』の研究

説話における身体の欠損をめぐる研究

○池澤 一郎

石川雅望『通俗排悶録』研究

○鈴木 貴宇

帰朝後の永井荷風についての研究

○坪井 秀人

「故郷」へ至る長き道のり——安岡章太郎中後期作品論——

宮沢賢治の農村活動と近代仏教の社会思想——浄土真宗と日蓮宗のはざま——

夏目漱石『三四郎』『それから』論——作中人物間に形成される主従関係に着目して——

○十重田裕一

楽しき玩具「ドグラ・マグラ」——夢野久作『ドグラ・マグラ』のコンテンツ受容としての受容史分析

メディア越境者としての三島由紀夫——一九六〇年代を中心に——

芥川龍之介の童話研究——雑誌『赤い鳥』掲載作品における「神秘」の表象と合理性——

○鳥羽 耕史

〈漱石神話〉とケアの倫理

虚無への抵抗——一九五〇年代前半の堀田善衛文学と「主体」再建との関係をめぐって

木下順二の民話の思想——草の根的文化運動における国民文化形成のなかで——

○澤崎 文

鎌倉時代の古文書における宣命書きの研究

○森山 卓郎

現代日本語の同格表現について

2023（令和5）年度

○陣野英則

一条兼良の源氏学に関する研究

平安中期の物語文学における噂——『源氏物語』を中心として——

『源氏物語』論——親子関係に着目して——

平安文学の英訳の研究

源氏物語の「偽作・補作」群に関する研究

○河野貴美子

釈信阿撰注釈書における漢籍引用の方法——類書転引と書籍名掲出を中心に——

尚齒会の研究——親和漢におけるテキストと図像の展開——

○宗像和重

夏目漱石初期作品論——視覚を司る〈身体〉の表象をめぐって——

塚原洪柿園研究

谷崎潤一郎論——一九二四年から一九三〇年まで——

○十重田裕一

井伏鱒二の地方表象——昭和初期小説における方言・少女・映像——

野上弥生子の大正期短編小説の研究——〈育児もの〉と愛情小説をめぐって——

○鳥羽 耕史

三島由紀夫文学における父性問題

家族に訪れる怪異——虚構の時代以降の文学・映像作品をめぐって——

澁澤龍彦研究——〈歴史〉のブリコラージュをめぐって——

星新一ショートショートが描くユートピア——前期作品の再定義をめぐって——

○澤崎文

インタビュー談話の日本語訳における性差の研究

〈博士学位申請論文〉

2024（令和6）年度

現代文学と〈食〉——村上春樹の諸作品を中心に——

日本語における現実と非現実に関する文法現象の研究

平安中期私家集における歌人像の研究

『拾遺抄』『拾遺和歌集』の研究
上代和歌と歌論の研究
平安時代かな文学における鳥の多角的研究
語られる聖地像の研究——北陸地方の寺社縁起を中心に——
『懷風藻』の研究

2023（令和5）年度

日本「医事説話」の研究——中国医学知識の受容と展開——
上代文学の表現と漢籍受容
平安期漢文学研究——「おほやけ」の文書を中心に——
立原道造研究——詩学および文学思潮——
内田百閒研究——一九三〇年代から一九五〇年代の作品を中心に——
上代文人達の表現世界—山田三方・「長屋王宅詩宴」・「和語」と「漢語」—

【修了後の進路】

修士課程

博士後期課程進学、中学・高校教員、教育関係、ジャーナリズム、一般企業など

博士後期課程

大学・短期大学教員、中学・高校教員など

【入学試験】

- * 日本語日本文学コースが実施している入学試験
- * 出願資格などについては、事務所にご確認ください。

〈修士課程〉

- ・ 一般入学試験
- ・ 推薦入学試験（学部生推薦入学制度）
- ・ 論文特別選抜試験

出願資格

早稲田大学文化構想学部・文学部の「卒業研究・ゼミ論文・卒業論文」、もしくは早

稲田大学（学部）に提出したこれに類する論文に限る。

- ・一般科目等履修生入学試験

〈博士後期課程〉

- ・一般入学試験

【早稲田大学国文学会】

- ・早稲田大学文学研究科日本語日本文学コース、教育学研究科国語教育専攻／教科教育学専攻など、所属を横断した早稲田大学国語国文学研究者、在学生、出身者などによる研究学会。
- ・大会の開催、機関誌『国文学研究』の発行など、活発な活動を展開し、学術成果の報告と会員の交流の場となっています。

【問い合わせ・相談窓口】

ホームページ「日語日文」

<https://dpt-bun-nihon-go-bun.waseda.jp/>

日本語日本文学コース室

39号館5階2519研究室

開室時間（2025年度春季）：

月火水金 12:00-17:00（木 12:50-14:50） 講師もしくはTAが在室

メール：wnichibun@gmail.com